品店技人

ファイル75

取材日 H26.7.11

(有)キョウリツ電子

所在地：横手市八幡字十二柳242
TEL0182-23-8551　FAX0182-23-8552
【創　　業】1986年(昭和61年)
【従業員数】20名
【営業時間】8:00～17:00
【定 休 日】土・日曜日・祝日
【事業内容】電子部品製造・放射能検査

プロフィール

高橋（たかはし）　要（かなめ）

役職名：代表取締役
生年月日：1957年2月17日
趣　味：バイク
出身地：横手市

今回は、電子部品メーカー(有)キョウリツ電子、高橋要社長を訪ねました。主力の電子部品に加え、新たな分野へ進出したとのこと。それは、一体!?

創業の経緯を教えて下さい。

29歳のときに創業しました。

独立のきっかけは、とある会社から仕事を請け負ってみないかと声を掛けられたことですね。正直な話、そのお話は自分がイメージしていた創業とかけ離れていたので迷いました。

私は自分の家の小屋で妻と家族経営するぐらいの規模で考えていたんですが、いただいたお話は10人程度の人を集めてラインを組んで仕事をするということで・・・。仕事をすることと経営をすることは全く違う資質だというのはもちろん分かっていましたし。

ただ、「そんなことを急に言われても困る」と言うことは簡単なことだけれども、このお話を逃したらこれまでと同じ生活が続くだけなので後になってやっておけば良かったと後悔したくない、その思いから創業に踏み切りました。

大学の工学部を卒業して地元就職をしたんですが、その会社の都合でしばらく東京の電子関係の会社に研修に行かせられました。そのときの経験が今に繋がっていますね。

そういう経緯があったんですね。当初はどのようなものを作っていたんですか。

はじめはフロッピーディスクの一部を組み立てていました。それも5インチとか8インチの。若い人はわからないと思うけども。

▲左が8インチのフロッピーディスク

その後はDVDなどのディスクの読み取り部分を手掛けました。当時は、ゲーム機のヒットも相まって忙しかったですね。従業員も80人ほどおりました。

現在は、電子部品の下請けの他にも自動車関係などの仕事を請け負っています。なので、「何屋?」と聞かれても困りますね。

なるほど。だから自動車関係の仕事も受注してるんですね。

特殊な自動車の配線を請け負っていますが、この仕事はやっていて満足感が大きいですね。というのも自分たちがつくっているものが実際に形になってみえますし、エンドユーザーとの距離が近いのでつながっていると感じています。

リーマンショックのときは厳しい状況だったと思いますが。

そうですね。私どももご多分に漏れず大打撃を受けて業績は落ち込みました。ただ、乗り越えることができたのは、多種多様な仕事をしていたからだと思います。これからもやれることは何でもやっていきたいですね。積み重ねた経験が次への応用やこんなこともできるんだよっていうアピールにもなりますしね。何より自分たちの自信や誇りにつながっていると感じています。

▲手作業で配線を作っています

反応が伝わってきますからね。

そもそも秋田県の製造業者にまわってくる量産の仕事はコストが低いんですよね。逆にいうと我々は多数の従業員を抱えて大量の作業をこなさないと成り立たない状況にあります。従業員としても何のどこの部品を作っているのか分からないこともありますからね。その状況から脱却するために、特殊性や趣味性をもった製品を生産していくことが重要だと思って試行錯誤しています。

現在、他の分野に参入していると伺いましたが。

はい。一昨年から放射能検査の分野に挑戦しています。きっかけは、震災後に何かできることはないのかと考えてのことでした。これがどの程度仕事として成り立つのか曖昧なままスタートし、周囲からも批判も受けました。

昨年は、月に2，3回福島県に足を運びました。

放射能検査の実情は、どうでしたか。

実は放射能検査はやりたがらない、というのが現実でした。わざわざ検査をして高い数値で検出されたら困るというわけです。

福島県内の農作物や魚介類などの食品取扱業者は、非常に丹念に検査をされています。しかし、近隣県となると安心・安全意識が低いのか、あまり積極的ではないですね。大手食品業者や行政では独自に検査を行なっているようですが。

今後、東京オリンピックを控えて再び日本に注目が集まってきます。福島県と秋田県が離れているという認識は我々だけなのかも知れません。日本国内においても秋田が東北のどこにあるのかが分からない人もいるだろうし、まして海外の方にとってみれば放射能影響区域内と捉えられていてもおかしくはないと思います。

秋田の農産物やお酒などを全国や世界に売り出そうとするのであれば、ぜひ放射能検査を受けていただいて安心・安全の裏付けをとっていただきたいですね。

そうですね。検査の様子を見せてもらってもいいですか。

私どもで導入している機械は、少量の検体でスピーディに検査することができます。他の機械は、一度に500g～1kgの検体が必要でして、1kgの野菜や魚って高価ですよね、捨てるのはもったいないし。それで検査に二の足を踏む方もいらっしゃるようです。

この機械は100gで検査することができますので、気軽に、まずはお問合わせいただければと思います。

▲水を検査していただきました

話は変わりますが、趣味はなんですか。

バイクですね。古いのもあわせて4台あります。バイク乗りは、道の駅に立ち寄ると、初対面でも会話が弾むんですよね。それも楽しみのひとつです。

新婚旅行は、妻と北海道にツーリングに行ってきました。今では私の後部座席で眠ったりもしていますが（笑）

▲愛車の1500ccバイク

いいですね。最後に今後の抱負をお聞かせください。

生活に必ずしも必要でないけど、憧れるものってありますよね。そういった製品のものづくりに携わっていけたら、自分も従業員もお客様もきっと幸せになれるんだろうなって思います。

また、これまでと同じく、やれること、やってみたいことはやる、という姿勢は貫いていきたいと思います。

常に前を向いて進み続ける高橋社長へのインタビューでした。